

1 主題構成表

主題名 けんきょに、広い心をもって
資料名 銀のしょく台

■ 内容項目B 相互理解，寛容

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

■ 価値の分析

- ・人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには、多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う関係を築くことが不可欠である。自分の考えや意見を伝えた上で、相手のことを理解したり尊重したりするために、相手の立場を推し量り、時には相手に譲りながら互いの願いの実現を図る方法を探ろうとする態度を育てることが重要である。
- ・高学年では、「互いの意見をきちんと主張できること」を基盤として、自分と異なる意見を受け止めつつ、互いの在り方を認め合おうとする相互承認の感覚を育むことが大切である。この感覚を育むことが、謙虚な心、広い心で他者を受け止めようとする態度へとつながっていく。
- ・指導に当たっては、具体的な解決方法を考えることで、お互いに意見の相違を乗り越えて、どちらも納得できる現実的な在り方について考えることを大切にしたい。

■ 内容項目から見た児童の実態

- ・子どもたちは、相手の立場に立って考えることは大切なことだと、頭では分かっている。しかし、自分と考え方が違う意見に対して、その立場を理解しようと努力し、相手に譲ることは少ない。
 - ・自分とは違う考え方を受け止めつつ、互いの在り方を認め合おうとすることはしにくい傾向にある。
 - ・対立する状況を改善するために、互いにできることは何かということを考えながら生活できている児童は少ない。
- (要因)
- ・自分中心に考えてしまう幼さから抜け出せず、相手の気持ちや立場を理解しようと努力できない。
 - ・人の意見は多様であり、自分とは違うところに価値があるのだということを受け入れられていない。
 - ・自分が解決しなくとも、周りの誰かがやってくれるだろうと、受け身な態度になっている。

■ 資料の分析

- 銀のしょく台
- ・この資料は、ジャンの様子や行動に焦点を当てた4枚のイラストで区切りながら、紙芝居のように提示されるため、ジャンの気持ちに共感しやすい資料となっている。
 - ・ジャンは、自分の欲望のためではなく、姉とその子供の飢えをしのぐために罪を犯した。また、その罪により、町の人から冷たい仕打ちを受け困り果てている。その背景が紹介されることにより、ジャンの気持ちや立場に共感しやすくなっており、ミリエル司教もその立場に立ったから、ジャンに対して愛情を注いだのだということに気付くことができる資料である。
 - ・また、ミリエル司教が銀のしょく台まで手渡した理由を考え、話し合うことを通して、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重する態度を育て、これからの自分の生活につなげる意欲を高めたい。

■ ねらい

相手の立場に立って相手を許すことの難しさや素晴らしさに気付き、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しようとする態度を育てる。

■ 展開の構想

- ・資料を読み、ミリエル司教がジャンに銀のしょく台まで渡したが、自分だったらどうするか考えさせ、相手を許すことのできない弱さを表出させる。
- ・ミリエル司教がジャンに銀のしょく台を手渡した理由について話し合うことで、ジャンの罪を許し、その上で立ち直るための愛情を注いでいるミリエル司教は、ジャンの立場に立って彼の気持ちを考えていることに気付かせる。
- ・自分の経験やこれまでの考え方を振り返り、これから「自分と異なる立場の相手を受け入れる」ためにはどうするとよいのか考える。

■ 判断力・心情・実践意欲を高める工夫

- [中心発問]「銀のしょく台まで手渡したのはなぜだろう。」という問いで、相手の立場や将来のことを考えた上で許していることが発表できるようにする。
- [言語活動]資料を読んだ後に、自分だったらどうするかをノートに書かせることで、自分の考えを明確にする。その後、グループ交流を位置付けることで、互いの弱さを話しやすいようにするとともに、多様な感じ方に出会えるようにする。
- [学習形態]深めの発問として「誰にでも銀のしょく台をあげたのだろうか。」と問うことで、優しさから許しているのではなく、相手の立場に立っていることが、その行動の根底にあることに気付かせる。

■ 道徳科と他の教育活動との関連 (補充 ・ 深化 ・ 統合)

学活「はりんこ遠足の計画」→行事「はりんこ遠足」→道徳科「銀のしょく台」→学活「学級の諸問題を解決しよう」
はりんこ遠足で、低学年の子の希望を受け入れたら、快く手助けをしたりできた行動の裏にあった広い心について、改めてじっくり考えることを通して、同級生やその他誰に対しても、広い心で自分と異なる立場を尊重することの大切さについて一層考えを深める。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	設定された場面で、自分だったら相手を許すことができるかどうかについて話し合う。 ○「自分だったらどうするか。」を考えたことについて、事前にアンケートをとった結果を示す。	・そのとき、相手はどんな気持ちだったか、想起させる。
展開 前 段	資料「銀のしょく台」を読んで話し合う。 ジャンの心情を考え、心がすさんでしまった様子を読み取る。 自分と違う考え方や立場の相手を受け入れる心について考えよう。 ○ミリエル司教はこうにしてあげたけど、自分だったらどうするだろう。また、それはどんな気持ちからだろう。 ・自分だったら、きっと、警察につきだしてしまうと思う。優しくしたのに、自分の物を盗まれたら許せないから。 ・絶対に許せない。恩を仇で返すようなことをされたら、とても頭にくるところから。 ・訴えろと思う。やっぱり悪いことをしたら、罪を償わないといけないから。 ・同じように許してあげろと思う。ジャンがかわいそうだから。 ミリエル司教がジャンに銀のしょく台まで手渡したのはなぜだろう。 ・盗んでしまうのは仕方ない。あんなに町の人に冷たくされたら、心がすさんでしまうから。 ・ジャンの気持ちを考えると、盗んでしまうのは仕方ないことで、それよりも、ジャンにこれから正直に正しく生きていってほしいと願っていたから。 ・自分自身も失敗をする可能性があるのだから、ジャンのことも許そうと思ったから。 ・ジャンにこれから正直に生きてほしい。これからのジャンの生き方に期待をして、ジャンを信じてあげていたから。	・教師が範読する。「私たちの道徳」P 82～83の挿絵を板書に示しながら、ジャンの境遇が理解できるように話を進める。 ・「なぜパンを盗んだのだろう」「町の人にはなぜジャンに冷たいのだろう」等、補助発問して、ジャンの境遇に気付かせる。 ・自分がミリエル司教の立場だったら、どのように考えるか、想像させる。 ・考えをノートに記入し、考えを明確にさせる。 ・グループ交流を位置付け、互いの弱さを素直に話したり、なかなか許すことのできない弱さをもっていることを出させたりする。 ・許せるという考えも受容し、後に出てくるミリエル司教が許した理由と比較できるようにする。 ・「ミリエル司教は優しい人だから」という安易な考えに流れないようにするために、「本当に優しいというのは、盗みを許すことなのか？」などと問う。 ・単純に罪を見過ごしているのではなく、ジャンの将来のことを考えていることに気付かせる。 ・ミリエル司教は優しさからでなく、ジャンの立場や境遇を考えて許していることに気付かせる。 【深めの発問】 ミリエル司教は、誰にでもしょく台をあげたのだろうか。
展開 後 段	「自分と異なる立場の相手を受け入れる」ためには、どうするとよいのか、自分の生活を振り返り、まとめを書く。 ○これまでの生活の中で、自分とは違う考え方や違う立場の相手を許すことができなかった自分についてどう思うか。 ・これまで、相手の立場を考えずに怒ってしまったり、相手の言うことが正しいのが分かっているにもかかわらず自分の思いを押しつけてしまったりしたことがあった。もし、自分が相手の立場だったら困ってしまうし、自分だって失敗することもあるので、これからは、相手のことを考えて広い心で許していこうと思う。	・そのときの気持ちや学習した内容を想起させ、これからの生活の中で、広い心で相手を受け入れることができるようにする。
終末	教師の説話を聞く。	変容の見届け ・自分の生活を振り返り、相手を許すことのできる寛容さは自分に対する謙虚さが基盤になっていることを理解し、広い心で異なる意見や立場を大切にしようとする態度で生活しようとしている。

6年2学期 道徳 実態分析・評価シート

内容項目	教科・領域・活動	内容	評価	よさや成長
B 相互理解 寛容	総合	あいりレー訪問		
	特活	はりんこ活動		
	行事	はりんこ遠足		
	道徳	銀のしょく台		
	学活	学級の諸問題を解決しよう		
	体育	サッカー / ソフトボール		
	特活	委員会活動		
	日常	登下校の様子		
	日常	掃除の様子		
	日常	班活動		

< 2学期所見 >

評価のしかた 視点 B 相互理解, 寛容

道徳の授業

- ・自分だったらどうするかや, ミリエル司教がどんな思いで銀のしょく台を渡したのかを
考えることができたか。
- ・相手の立場に立って相手を許すことの難しさや素晴らしさに気付き, 自分と異なる意見や
立場を尊重することができたか。

日常生活(授業, はりんこ活動, 委員会, 登下校など)

- ・はりんこ活動や登下校などで, 下学年の子たちの思いを受け入れたり, 委員会や授業
の話し合いなどで, 仲間の意見や立場を尊重したりすることができたか。